

3・11東日本大震災、福島原発事故から満2年

「原発なくせ、被災者本位の復興を急げ」の声 全国に響く

市議団も3月10日柏崎集会に参加

死者15,881人、行方不明者2,668人、東日本沿岸部の町に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災と福島第一原発事故から、3月11日で丸2年が経過しました。

しかし、いまだに住民の生活再建は進まず、315,196人も避難・転居者は、不自由の極みに立たされています。新潟県内にも、福島からの避難者が、18才未満約2,100人を含む約5,800人にのぼっています。

こうした中、3月9日から11日にかけて、全国で「原発なくせ・被災者本位の復興を急げ」の声が大きく響き渡りました。

柏崎市産業文化会館で10日(日)に行われた「東電・柏崎刈羽原発差止め訴訟提訴1周年、福島原発事故2周年、柏崎刈羽原発



の廃炉を求めるつどい」には、県内各所から580人が集まり、「柏崎刈羽原発の再稼働ストップ、原発なくせ」の願いを確認し合い、集会の後には、市内をデモ行進しました。この集会には日本共産党上越市議団3人とたくさんの上越市民も参加しました。

集会では、菅野正志さん(家族だけが福島県郡山市から新潟市に避難中。本人は郡山で仕事をしながら毎週子どもたちに会いにきている)が報告をしました。

菅野さんは、子どもが被ばくし、大量の鼻血を出したこと、今も健康被害におびえていることなどを切々と語りました。「あの時正確な情報が提供されていたら、こんなに後悔をしなくてすんだ。直ちに健康に影響のある状況ではないと、私たちをだました東電と政府が憎い」「私たちに平穏な暮らしを返してほしい。原発による被害者は私たち福島県民で最後にしましょう」と涙を浮かべて訴えました。

新潟大学の立石雅昭名誉教授(地質学)は、「敷地内にある23の断層は、すべて活断層とみられ、地震でずれる可能性がある」と、事故の危険性を指摘しました。

上越市市民プラザでは 大震災写真展

9日から11日にかけて、東日本大震災の被災状況や救援、復興活動などの写真展が開かれました。上越地域消防や上越警察署、陸上自衛隊高田駐屯地など地元6団体



から写真が提供され、また救助活動に使用されたウェットスーツや放射能防護マスクなど、さまざまな機器が展示されました。

東京では4万人が集会

同じ10日、東京・日比谷公園、国会前、霞が関一帯では、「0310原発ゼロ☆大行進」(反原連)の大集会とデモ行進が行われ、4万人が参加しました。

日本共産党の志位委員長は、連帯のあいさつを行い、「事故は収束とはほど遠い」と強調、①収束宣言は撤回し、福島再生に全力をあげることに、②事故も収束していないのに、原発の再稼働は論外、③原発と人間は共存できないと訴えました。

唐突な公民館再配置計画

公民館の再配置計画が、3月6日の文教経済委員会に突然出されました。

この再配置計画は、

- ① 公民館は、一つの小学校区に1施設だけとし、地区公民館施設と分館がある場合は分館を廃止する。複数の分館と地域生涯学習センターがある場合は1つの建物に統合し、分館とする。
- ② 中山間地域にある施設は、30年間必要に応じ存続する。ただしこの場合でも分館や生涯学習センターがある場合は統合し、分館とするというもの。

教育委員会は、「公民館本館と、各区に設置されている地区館は、公民館機能を持った教育機関だが、各地区にある分館は教育機関の管理する会場」などとして、公民館の分館を単なる貸館施設であるかのような乱暴な認識を示しました。

上野議員は「こんな誤った認識のもとで、しかも重要な所管事務調査であるにもかかわらず、今朝急に提示されてきたものには、会派の代表としての意見を述べるわけにはいかない。住民との問題の共有もある。今日は審査すべきではない」と、毅然と指摘しました。その結果、全委員一致で、所管事務調査は後日改めて審査ということになりました。何としても、この再配置計画は撤回させなければなりません。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.355 2013年3月17日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

市議団の一般質問は

3人とも3月19日です

上野 議員：午前11時前か午後1時
平良木 議員：午後2時前か3時過ぎ
橋爪 議員：午後3時過ぎか4時半頃